

[成果情報名] 三重県南部におけるアカマルカイガラムシ幼虫の発生消長と防除適期

[要約] アカマルカイガラムシ第1世代幼虫の発生は、6月上旬頃から始まり、ピークは6月下旬から7月上旬である。第2世代幼虫の発生は、8月上旬から始まり、ピークは8月中旬から9月上旬である。県南部での防除適期は7月上中旬及び9月上旬と考えられる。

[キーワード] アカマルカイガラムシ、発生消長、防除適期

[担当] 三重科技セ・農業研究部・紀南果樹研究室

[連絡先] 電話 05979-2-0008 電子メール [suzukk07@pref.mie.jp](mailto:suzukk07@pref.mie.jp)

[区分] 関東東海北陸農業・関東東海・病害虫(虫害)

[分類] 技術・参考

---

[背景・ねらい]

アカマルカイガラムシは、カンキツ類の主要害虫として世界的に知られている。本邦では九州以南で発生していたが、近年、瀬戸内地方、三重県南部でも確認され、国内における発生地域が拡大している。三重県南部では、幼虫の発生消長が未確認であり、被害管理できていたとはいえない。そこで、幼虫発生消長の調査を行い、防除適期を特定し防除指針策定の参考とする。

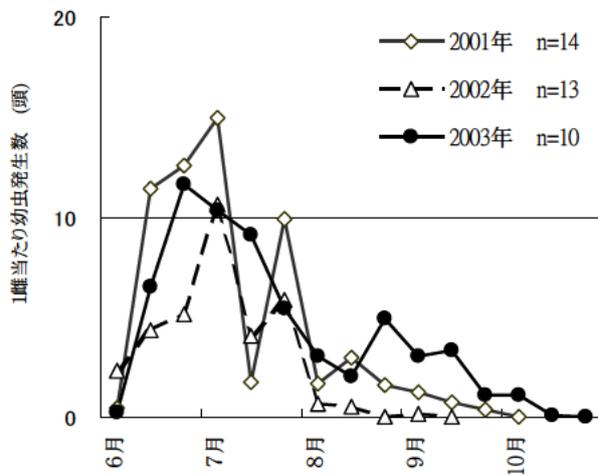
[成果の内容・特徴]

1. 2001～2003年の調査結果から、第1世代幼虫の発生は、6月上旬頃から9月下旬までであり、発生のピークは、6月下旬から7月上旬である。第2世代幼虫は、8月上旬から11月にかけて発生し、ピークは8月中旬から9月上旬である(図1、図2)。
2. 1雌あたりの幼虫平均産出数は、越冬世代雌成虫で61.4頭、第1世代雌成虫で89.5頭であり、第1世代雌で多い傾向である(表1)。
3. 三重県南部においては、第1世代幼虫の密度を下げるための薬剤散布適期は、西南暖地よりやや遅く、幼虫密度が上昇する7月上中旬と考えられる。第2世代幼虫については、9月上旬と考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 第2世代幼虫の発生量が多く、収穫果実に被害が拡大する。まず第1世代幼虫の密度を低くするための防除を適期に行うことが重要である。

[具体的データ]



注)雌成虫からの幼虫産出数調査の方法  
 1)例年5月下旬頃、前年の春枝(葉)に寄生している越冬雌成虫を枝(葉)当たり1頭残してマークした。  
 2)雌寄生枝部位の上下あるいは葉柄に防虫粘着剤(タングル)を塗布して、他個体の侵入、孵化幼虫の逃亡を防いだ。  
 3)10日間隔で雌成虫から脱出定着した1,2齢幼虫を除去しながら数えた。  
 4)第2世代幼虫については、同様に例年7月下旬に第1世代雌成虫をマークして、第1世代幼虫と同様に調査した。

図1 第1世代幼虫発消長

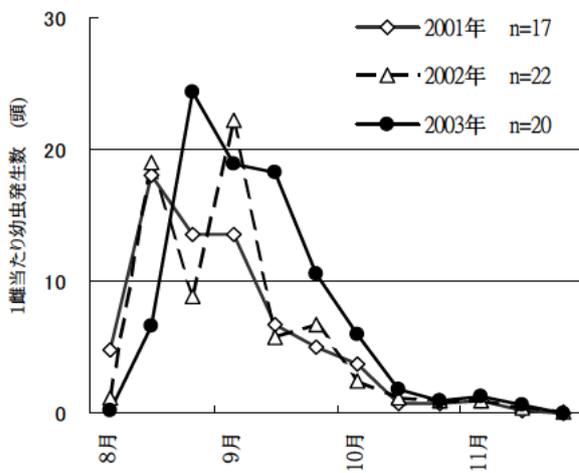


図2 第2世代幼虫発消長

表1 マークした雌成虫の幼虫産出(2003年)

	越冬世代			第1世代		
	平均±SD	MAX	MIN	平均±SD	MAX	MIN
1雌当たり幼虫産出数*	61.4 ±37.0	141	20	89.5 ±28.7	129	36
雌成虫幼虫産出期間**	89.2 ±30.4	140	39	85.4 ±21.3	104	43

第1世代: n=10, 第2世代: n=20

1雌当たり幼虫産出数は、t検定(5%)により有意差有り

\*: 各マーク虫における幼虫初発から、幼虫を産出しなくなるまでの産出数の合計

\*\* : 各マーク虫における調査開始から、幼虫を産出しなくなるまでの日数

[その他]

研究課題名:難防除病害虫に関する防除技術の確立

アカマルカイガラムシ幼虫の発消長

予算区分:県単

研究期間:2001~2003 年度

研究担当者:鈴木賢

発表論文等:鈴木(2004)関西病虫害研報 第46号:87-88